

p2-3

ご近所・多世代・縁日まつり
ちびっこ縁日「よっといでー!」

p4-5 サポセンの事業報告

p5 市民活動助成サポート講座

p5 [チャレンジャー]数値料理会

p6 NPO・市民活動よろず相談室

p6 サポセン新規届出団体

p7 サポセンの講座・イベント情報

p7 [スタッフコラム]松戸自主夜間中学

p8 [ある日のサポセン]のびのびと活動できる場所がない!



特集



1歳児のママがゼロから企画したイベントに
なんと130世帯以上の親子が来場！
「地域の親子が顔見知りになれる場所も機会もない…
なら、自分で作っちゃおう！」という思いつきから
企画が始まりました。
準備から大成功を収めるまでの軌跡をご紹介します。



ご近所・多世代・縁日まつり ちびっこ縁日「よつといでー！」

『ちびっこ縁日』はじまるよ〜
よつといでー！

明るい呼び声とともに矢切駅前のスーパーの中庭は親子連れ
でいっぱいになりました。訪れた子ども達は、全長5m以上の
「わくわくトンネル」をくぐったり、輪投げ、ヨーヨー釣り、
大型絵本の読み聞かせ、羊毛でつくる「ふわふわちようちよ」
作り、はらぺこあおむし作り、折り紙こま作りなどを思う
存分楽しみました。

4つのサークルと 学生ボランティアさんが協力して

各ブースを企画したのは、近隣で活動する4つの子育てサー
クル(びよっこくらぶ、おひさまかあさん、おやこの広場、る
ぷる、おむつなし育児プロジェクト)。また当日スタッフとして、
地元の松戸向阳高校ボランティア部の生徒も参加しました。
「今日は何かやっているの？楽しそうね」と、買い物に来た
お年寄りが目を細めながら通る姿も…。



大型絵本も大好評♪



全長5m以上の
「わくわくトンネル」!

楽しんでね〜



羊毛で
「ふわふわ
ちようちよ」



引きこもりがちになる親子の力になりたい

日頃イベントが少ない矢切駅前で、130世帯以上の親子が訪れ、地域の多世代が交流するきっかけとなった「ちびっこ緑日『よっといでー!』」。その仕掛け人は、1歳の女の子の母親である、おむつなし育児「pipiクラブ」の浦瀬瞳さん。「子どもが生まれてから、徒歩圏内で通える子育て広場が無い」ことに気づいた浦瀬さん。子育て情報も入手しにくく、近所では引きこもりがちになる親子の声も耳にしたそうです。そこで、出産前は保育士として保育園や児童館で働いていた経験から、地域の親子が顔見知りになれるイベントができないかな? と思いついたことから、企画が始まりました。

今後の夢は…?

「子どもを寝かしつけた後、深夜に書類作成や事務作業をしたり、日中は団体まわりや町会掲示板にチラシを貼り広報宣伝に駆け回る等、大変さもあった」と語る浦瀬さん。「でも、『近所に乳幼児のための広場が無い』と不満を言うだけで何もしない自分を子どもが見た時に、この子は私はどう思うだろうってふと思ったんです。だったら私が変わろう、動こうと思った。」

今後の浦瀬さんの夢は「家と学校以外に子どもが愚痴をこぼせる居場所をつくりたい。私自身、これまで関わってくれた大人のおかげで随分変化したので。」とのこと。

最初はたった1人でも、一歩動き出すことで、多くの協力者が現れて何かを生み出すことができる。あなたが気になっていいる地域の悩みも、自分が動き出すことで、解決に向かうかもしれません。

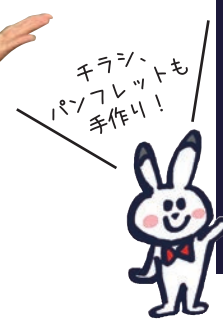


かわいい
輪投げ

家と学校以外に
子どもが愚痴をこぼせる
場所をつくりたい!



仕掛け人
浦瀬瞳さん
(おむつなし育児
「pipiクラブ」主宰)



ちびっこ緑日ができるまで

Goal!

ふりかえりの会

来場者アンケートと出展団体の感想を共有。

イベント当日

出展団体、当日ボランティアが運営。130世帯以上が来場。来場者アンケートを回収。

広報・当日準備

チラシ作成、町会掲示板、子育て支援施設へ配布、Facebookページ立ち上げ、当日パンフレットの作成

実行委員会立ち上げ

サポセンで子育て団体の紹介を受け、4団体の出展が決定。実行委員会を開催。

サポセンに相談・企画書づくり

「まちづくりコロナ支援企画」として、サポセンと共催で進めることが決定。スーパリーの会社方針を調べた上で、コンセプトを固め、企画書を作成。打診の結果、協力を得られることが決定。

Start!

場所決め

候補地：矢切駅前スーパリーの中庭
皆が知ってる、駐車場と中庭が分かれていて安全、屋外のため気軽に立ち寄りやすい。

1 多世代交流とつながる「学生ボランティアの場」

(- 夏のボランティア体験事業 Let's 体験!!2017 を終えて -)



↑活動の様子

夏休みを活かして地域へ出てみたい・何かしたい! という学生向けの本事業。松戸市内で活動している団体さんに受け入れを協力頂き、今年は300名以上の学生が「地域のお祭りの当日運営」「福祉施設での交流体験・利用者のサポート」「子どもと遊ぶイベントスタッフ」など、様々な活動へ参加しました。「Let's 体験!!」は毎年夏の事業ですが、ご協力いただく団体さんとの準備は実は4月より始まっています。

今年度は、ボランティア活動の前にワクワク感を高める対話の時間「オリエンテーション(11)」にて明治大学の横田ゼミ生にご協力いただいたり、夏の活動をみんなで振り返る「ふりかえりの会(8)」をサポセンのプログラムの学生に企画・運営してもらったりと、活動前後でも学生が活躍された体験講座となりました。

参加申込みの際に、昨年も来た学生が「去年やってみたい楽しかったし、もうこの団体に参加するって決めてます。団体の人も元気がなあ」と楽しそうに来てくれると、彼らにとって年に一回の帰省先のような場所になっているんだなあとしみじみ感じます。中には「活動中に進路の相談ができて嬉しかった」という参加者も。会う頻度は少なくとも自分の悩み・これからは相談できる大人がいる。そうした多世代交流の場や繋がりにもなっています。今年とても嬉しかったことは「Let's 体験!!」をきっかけに、それ以降も活動に参加しています」といつの間にか団体側に入っていた学生が「でも、それはそれとして申込みに来ました」と来てくれたこと。



Let's 体験!! 2017スケジュール



人から「活動のきっかけ」や聞きました。

参加者が感じたことを活動の最後に書く「ふりかえりシート」にはそれぞれの夏のドラマが綴られています。「言葉は通じなくても、笑いかけたら笑顔で返してくれたのが嬉しかった」「社会にも色々な形があるんだなと思った」等々。「ふりかえりシート」の内容や、今年の活動の様子は年内発行予定の「ふりかえり文集」にて掲載予定です。

当日、受講生から発表された今後の活動プラン抜粋

- ・まちの人の声を集めた図書館づくり
- ・実家の古民家の空き部屋の活用
- ・地域に「ありがとう」の気持ちを循環させる地域通貨の普及
- ・親子を含む人と人とのコミュニケーションのサポート
- ・地域に根差した草の根の消費者教育の実施
- ・子育て世代と地域をつなげる活動
- ・シニア世代が自分自身も楽しみながら誰かの役に立つ活動

↑この他、やりたい事がまだ明確に決まっていな方も、「こんなことをやってみたい」というアイデアや、「こういったことならお手伝いできます」といった宣言をされていました。これから皆さんと一緒に、松戸をどのように盛り上げてゆけるのか、私たちも楽しみにしております!



↑集合写真

2

まちづくりキーパーソン養成講座 第3期、にぎやかに終了!

今年5月から全6回にわたり開催してきた「まちづくりキーパーソン養成講座」。

すでに地域で活動を始めている先輩実践者からのゲストトークを交えながら、地域のことを知り、自分のやりたいことについて掘り下げてきた受講生の皆さん。7月〜8月にかけては、とにかく肌で触れてみよう! をコンセプトに、実際に地域で活動している団体に行って実地体験もしてきました。

その集大成として、9月17日には報告会を実施。11名の講座受講生が、これから自分自身が地域でやってみよう! ことについて、思い思いのスタイルで発表しました。ある人はパワーポイントで、ある人は紙芝居で、またある人は楽器を演奏しながら……!

過去の講座受講生やゲスト講師の方々にも参加者として来ていただき、当日はとっても熱い想いあふれながらも、なごやかな空気に包まれました。

初回には子ども達の居場所づくりを始めている方や地域猫の活動をしている方、町会で高齢者の健康づくりを広げようと頑張っている方など、ジャンルも様々な人たちが17名が参加してくれました。「そもそも自分たちが助成金を得ることができるとかのかな?」「実際にどういうことをすれば助成金つて活用できるの?」といった疑問からのスタートでしたが、基本的に知っておきたい知識や松戸市の制度について具体的に聞くことができ、自分でも出来るかも!と感じることができたようです。

また実際に助成金を活用して活動を広げてきた3団体の方々に来ていただき、自分たちの事例を話してもらったことでより身近に考えることができたのではないのでしょうか?

第1回(日)
9/3(日)

〈団体事例に学ぶ!〉
助成金の基礎知識&活用のコツ

市民活動助成サポート講座
助成金を活用するための講座、開催しました!

サポセンでは松戸市が実施している助成金「市民活動助成制度」へ応募したい方や検討している方に講座を開催しています。今回はその様子を少しだけ紹介します。



↑オリエンテーションでは、団体の「中高生の頃思っていたこと」などを

いくら助成金を活用するためのプランができて、審査に通って獲得できなければ元も子もありません。自分たちの活動の魅力をどうすれば審査員やまたその先の多くの人に伝えることができるのか、プレゼンのコツについて実践しながら学んでいきました。講座の中で最も強調されていたのは「伝えたいメッセージをしっかりと意識すること。自分たちのことを知ってほしくて、どうしても沢山話したくなりますが、そこをギュッとしぼることで印象に残ってもらうことが大切だ」という話でした。

参加者も具体的に申請書を書いてきた方もおり、それぞれ最終的にはプレゼンを実践し、他の人の企画を審査してみるというワークをしました。そのことで聞く人の目線に立って話すことの重要性を実感できたという感想も見られました。

第2回(日)
9/24(日)

実践して学ぶ!
共感を呼ぶプレゼンのコツ



普段の相談でも助成金申請のアドバイスなども受け付けています! 助成金の情報なども幅広くありますので検討している方などはぜひお気軽にサポセンに立ち寄ってみてください。



「男の料理は数値から入ります。美味しい、という切り口からだ」と男性は入ってくれません」というのが男の料理教室15年の経験を持つ、会長の岩崎滋さんの言葉です。

一般的にはあまり耳にしない「自炊者」という言葉を使い、今年「自炊者の常用レシピ―母の味―」という冊子を松戸市の助成事業で発行し、試食会を月1回のペースで開催しています。

さて試食会に参加! 初対面でも参加者同士の食の話題で盛り上がり、サラダや茄子のポタージュの彩りの豊かさや手作りのヨーグルトやジャムを添えていただく工夫に感嘆! 作り置きや仕込食材で調理時間を短縮し、塩分を減らす「男目線のレシピ」を細やかに解説してくださいました。

食へのこだわりは自分を大切に生きて生きることに通じるのだな、と感じました。

〈チャレンジャー〉
市民活動団体紹介
数値調理会



お問合せ
数値調理会 (担当=岩崎)
E-mail ☒ bkffw515@ybb.ne.jp

平成25年に発足以来男性調理の普及に積極的に努める「数値調理会」。試食会を月1回のペースで開催しています。



↑発表の様子



↑交流タイム

塩分控えめ、
「男目線のレシピ」の数々に感嘆!
↓



「オープンスペースで語り合って困りごとを解決」
 ～NPO・市民活動よろず相談室～



当センター入口は、普段はミーティングスペースとして開放している広々としたオープンスペースになっています。この広い空間を利用し、原則1か月に2回「NPO・市民活動よろず相談室」を開いています。サロンのようなスタイルで講師を囲み、団体に共通する悩みや困りごとを解決していこう、という企画です。

Facebook活用術や写真の撮り方、編集の仕方などのノウハウ系から、市民活動の先輩から話を聴くトークセッション系と内容は様々。5月1日は、「人が集まるサロン運営のコツ」と題し、多世代交流サロン「みんなんち」を運営している認定NPO法人代表、佐久間浩子さんにお越しいただきました。現在サロンを運営している人、サロンを立ち上げたい人、サロンに興味がある人など様々の思いをもって場に集まり、実際の運営方法やボランティアの関わり、資金のこと、新しくできるサロンのこと、など語り合いました。最後は連絡先などを交換し合っつながりをつくることができました。

相談は右記に限らず常時受け付けていて、一か月30〜40、一年約300件以上の相談があります。個別相談はじっくり向き合っ相談できる良さがあります。このよろず相談では、実践者の話や他の参加者とのつながりづくりなどの魅力があります。

今年度はわかりやすいようにシリーズ化しています。

**市民活動
パソコンスキルUP**
シリーズ

活動に必要なパソコン活用術を学ぶ



**市民活動
トークライブ**
シリーズ

活動の先輩から学んで活動を広げる・つながりをつくる



広報宣伝力UP
シリーズ

SNSやITツールを使った宣伝活動のコツを知る



**法人運営
ノウハウ**
シリーズ

法人運営に必要な事務力を学ぶ



**やる気のあがる
チームづくり**
シリーズ


魅力ある活動を生むチームづくりのコツを身につける





Point

- ◆個別相談…じっくり相談できる！
- ◆よろず相談…生の声が聞けたりつながりづくりができる！



**サポセン
新規届出団体
を紹介します！**

(2017年8月18日～
届出順・敬称略)

- ★社会医療法人社団木下会千葉西総合病院健診チーム
- ★「原発・放射能問題を考える」市民の会
- ★親業サークル『タペストリー』
- ★特定非営利活動法人ハート・プラスの会
- ★SK2サークル
- ★小金ほのぼの食堂の会
- ★和気あいあいマジッククラブ
- ★「Gente(ヘンテ)」編集部
- ★松戸ミニテニスを楽しむ会
- ★ペア・リーフ
- ★松戸合唱まちづくり同好会

サポセンの講座・イベント情報

まつどみらい会議 2017
 松戸を手づくりで面白くしよう！

「子ども達が思いっきり遊べる場所をつくりたい」「ぶらっと行けて近所の人と気軽に話せるカフェがあったらいいな」「自分の空いている時間を使って何か楽しい地域のお手伝いができないかな？」そんな自分たちがほしい暮らしをいろんな人と話したり、実現するキッカケを見つけられる対話のイベントです。松戸暮らしをもっと面白くしたい！と考えている方、是非お越しください。

日時 12月10日(日) 10時～15時半
内容 壁きわトーク・ゲストトーク・キッズスペース・みらい会議など

NPO・市民活動よろず相談室
 広報宣伝力UPシリーズ

「パツと目を引くチラシ、リーフレットのデザイン明日から使えるテクニックを伝授」
日時 12月16日(土) 14時～16時
講師 阿部剛(まつど市民活動サポーターセンター長)
定員 15人(先着順)

なないろのもり・クリスマスフェスティバル
 へまちづくりコラボ企画

「作って、歌って、踊って、子どもも大人も一緒に楽しそう」
日時 12月17日(日) 10時半～15時半
対象 子育て世代のご家族
詳細 <https://ironomori.jimdo.com/>



Staff Column

皆に開かれた学びの場をめざして
 ー松戸自主夜間中学ー

千葉大学の石本穂乃さんが授業の一環で夏の間、インターン実習生として活動を行いました。期間中には松戸市内の市民活動団体へ体験に行き、レポートを書いてもらいました。今回はその中の一つ、「松戸自主夜間中学」について石本さんの書いたレポートを掲載します！

「来るもの拒まず」という精神とともに

「松戸自主夜間中学」(以下「夜間中学」)は、「松戸市に夜間中学校をつくる市民の会」(以下「市民の会」)が公立夜間中学校設置を目指す活動の一つで、今年で35年目を迎えます。「夜間中学」は「来るもの拒まず」という精神のもと、戦争が原因で学校に行けなかったお年寄りの方、不登校の子どもたち、外国籍の方、障害を持った方など、様々な生徒を受け入れてきました。

全員が教師で、全員が生徒

「夜間中学」のスタッフとして8年活動してきた麻場さんは、基本方針の一つである「教えられる人と教える人の間に隔てはない」という考え方に、初めは戸惑っていましたが、元小学校教師でもあるため、「先生が教え、子どもが教わる」という関係に慣れていたからこそ、「夜間中学」で「教育とは一体何なのか」を改めて考えさせられたそう。「教育とは、共同作業で真理を究めること。夜間中学では全員が教師で全員が生徒」

世代を超えた生徒とのかわり

「市民の会」代表の榎本さんは年配の生徒とのかわりから、「こちらが教わることが多い」と言います。「夜間中学」設立当初からのスタッフである榎本さんにとって、その当時戦争が原因で学校に行けなかったお年寄りの方は遥かに年上で、人生経験豊富でした。「そのような方から教わった内容のほうがかつて濃く、魅力的だった」そうです。

もっとたくさんの方に知ってほしい！

「市民の会」や議員連盟等の働きかけをはじめ、「教育機会確保法」施行もあり、様々な困難を乗り越え今年ようやく松戸市内の公立夜間中学校設立が正式に決まりました。榎本さんは「公立夜間中学校の周知にはとにかくその数を増やすことが大切だ」といいます。松戸市の公立夜間中学校設立が、公立夜間中学校周知の第一歩となることを願ってやみません。



↑石本穂乃さん(写真右)

7 「夜間中学」に携わる方たちについて、その歴史についてもっと知りたい方は、ぜひ『新たな出発の今 松戸市夜間中学校の30年ー/ 松戸市に夜間中学校をつくる市民の会編 桐書房』をご一読ください。

皆さんにサポートセンターのことや市民活動のことをもっと知ってもらうために、これまでに寄せられたご質問や実際の出来事などをとくに、仮想のストーリーに仕立てた「Q&A風」のコーナーです。

のびのびと活動できる場所がない！

ある平日の午前中、小さな男の子と一緒にサポセンへ訪れたお母さんが、入口の地図を見つけていました。お母さんにはサポセンの部屋について気になっていることがありそうですが、どうやら男の子は窓ガラスの装飾が気になっているようです。

Co デイナーター(以下Co) ……こんにちは。今、ガラスの壁にクリスマスの飾りつけをやっているんです。置いてあるセロファンや折り紙を使って、好きに窓に貼ってみてね。…お母さん、何かお探しますか？ よろしければ、お子さんが飾りつけをしている間、ご相談に乗りますよ！

相談者(以下相) ……ありがとうございます。家とは違う感じで、子どもも嬉しそう。少し聞きたいんですが…ここで音は気にせず活動できますか？

Co ……吹奏楽の楽器の練習にも使われることもあるので、それくらいまでなら問題ないですよ。なにか楽器などの活動をしているんですか？

相 ……普段は隣の市で、多文化共生・外国から来ているような保護者と一緒に、互いの文化を学びながら子育てをしやすくするコミュニティ作りをしています。交流会とかでの子どもたちの声や足音が他の利用者の迷惑になるのでは…といった感じで周りの目が気になりました。他の活動場所を探しているんです。ここで子ども向けの活動は難しいですかねえ。

Co ……なるほど。サポセンには多目的ホールや大会議室といった、広い施設があるので、子どもたちがたくさん来る団体も使っていますよ。子どもと一緒にプリマのようなものを自分たちで開催したり、子ども向けの「輪車サークル」もあつたりしますし、のびのびとできる場所ではあると思います。調理室もあるので、親子の料理教室もできますよ。

相 ……へえー！小学校にあるような設備が多いですね！多目的ホールも広くて、体育館みたい。

Co ……施設利用なら、書類を2枚記入してもらえれば使えますよ。ただ、活動に共感した新しい人も入れるようにしてくださいね。

相 ……わかりました！他のメンバーと相談して記入してみます。複数の部屋を借りれば色々できそうです、楽しみです！

Co ……無料で貸し出せる備品もありますので、ぜひ活動の幅を広げるのにも役立ててください。サポセンのミーティングスペースでの話し合いなら、顔を出してご相談にも乗れるので、皆さんと来てみてください。もちろんお子さんたちも一緒に来てもらうのも大歓迎です！

例えば、マイク・アンプやスクリーン、プロジェクター等無料で貸し出しています。Wi-Fi もフリーです！

予約もOKです～♪

へえ～…活動の相談にも乗ってもらえるのね！子連れでも安心だしまずはここでミーティングひらいてみようかな♪



サポセンニュースレター 2017年冬・第10号



発行日：2017年11月30日(※年4回発行)
発行元：まつど市民活動サポートセンター(指定管理者 NPO 法人まつど NPO 協議会)

「ぼっく」の配架にご協力いただけるお店・施設を募集します！

ニュースレター「ぼっく」を、お店や施設に配架していただけませんか？ご協力いただいたお店・施設は、この欄で名称・所在地等をご紹介します。もちろん、無料でお届けし、部数もご要望に応じます。広告掲載も募集中です。詳しくは、まつど市民活動サポートセンターまで、お電話・メール等でお気軽にお問合せください。

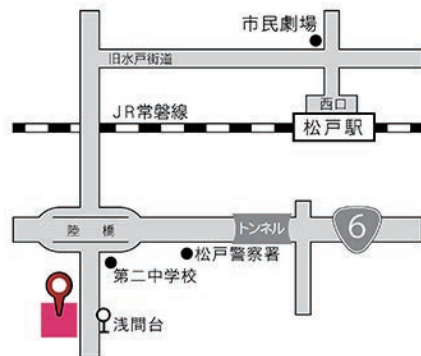
編集後記



今号からニュースレターのデザインをリニューアルしました。女性スタッフが増えたサポセンの雰囲気をそのまま表現した(?)かわいさ溢れるテイストでデザインしていただきました～♪(き)

まつど市民活動サポートセンター

〒271-0094 松戸市上矢切 299-1(総合福祉会館内)
TEL : 047-365-5522 FAX : 047-365-5636
E-mail : hai_saposen@matsudo-sc.com
URL : <http://www.matsudo-sc.com/>
facebook : <https://www.facebook.com/matsudo.sc>



◎開館時間：月曜～土曜…9時～21時 / 日曜…9時～17時
◎休館日：第1・第3水曜、年末年始(12/29～1/3)